

—新潟市—

新潟の拠点性向上に向けて ～新潟駅高架駅第一期開業～

1. はじめに

安政の五カ国条約により開港五港の一つに指定された新潟港は、2019年1月1日に開港150周年を迎える。この開港150周年を新しい新潟を切り拓くスタートの機会として位置づけ、拠点性の向上やまちづくりを推進し、国内外からの交流人口の拡大や地域の活性化につなげようとしている。新潟市では日本海側の拠点にふさわしい都市機能強化と都市内における公共交通の結節強化に向けて、連続立体交差事業や幹線道路、駅前広場等の都市基盤整備をはじめとした新潟駅周辺地区の総合的な整備を進めており、2018年4月15日に新潟駅が高架駅第一期開業を迎えた。

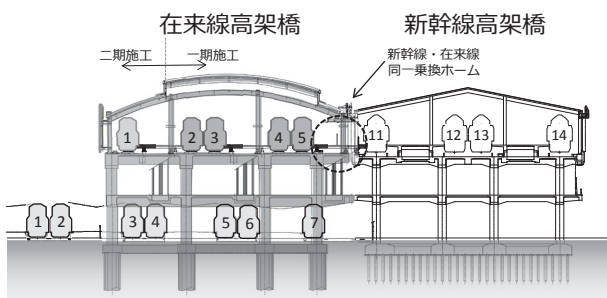
2. 新潟駅付近連続立体交差事業について

連続立体交差事業は、鉄道を挟む市街地の一体化を図るため新潟駅を中心に約2.5kmの在来線を高架化するもので、2つの特徴がある。

1つ目は鉄道の高架化に際し、駅規模のスリム化を図っている。これまでの新潟駅は4面7線と8本の電車留置線を有する規模の大きな駅であったが、事業費縮減や工事期間短縮を図るため、新潟駅機能の一部を隣接する駅や信号所へ移設することにより、高架化の規模を3面5線、電車留置線を4本までスリム化している。

2つ目は高架高さについてである。一般的な高さでは、新潟の場合、1日約2万台の交通量の跨線橋や、駅を横断する連絡通路が長期間通行止めとなるため、工事期間中でも跨線橋や連絡通路が通行できる上越新幹線とほぼ同じ高さで高架橋を整備している。

なお、今回の第一期開業により、踏切2カ所を除却し、踏切遮断による交通混雑が緩和されている。



駅部断面

新潟駅断面図

3. 新幹線と在来線の同一ホーム乗り換え

新潟駅は、都市交通体系の主要ターミナルであるとともに、首都圏と東北日本海側を結ぶ上越新幹線と在来線特急の結節点でもある。

このことから、在来線の高架高さが新幹線と同じ高さに計画されたことを活かし、上越新幹線と在来線が同じホームで乗り換えできるよう「新幹線・在来線乗り換えホーム」を新設し、高架駅第一期開業と同時に使用を開始した。

恒久的な施設としての新幹線と在来線の同一乗り換えホームは、数少ない事例であり、これまでの乗り換えは、必ず上下移動が必要であったが、同一乗り換えホームを利用することにより水平移動での乗り換えが可能になった。

これにより、在来線特急の利用者も伸びつつあり、さらなる交流人口の拡大や新潟駅の拠点性向上、日本海国土軸の強化が期待される。



新幹線・在来線同一乗り換えイメージ

4. おわりに

今回の高架駅第一期開業と同一ホーム乗り換え開始は、新潟市のまちづくりにとって大きな節目であり、「海フェスタにいがた」開催をはじめとする7月から始まった2019年12月までの開港150周年コア期間中の交流拡大基盤となる。今後、2021年度以降の高架駅全面開業、新潟駅高架下に設ける交通広場整備等による基幹的な公共交通軸の形成により、さらに新潟の拠点性向上を図り、希望と活力に溢れる新潟の創生を進めていく。

(新潟市 都市政策部 新潟駅周辺整備事務所)